



4. ヘルスコミュニケーション学関連学会賞 2022年度優秀論文賞選考委員長講評

藤崎和彦
岐阜大学医学教育開発研究センター

受賞論文と著者

奥原剛（共著者：岡田宏子、後藤英子、香川由美、常住亜衣子、木内貴弘）

Encouraging COVID-19 vaccination via an evolutionary theoretical approach: A randomized controlled study in Japan. Patient Education and Counseling. 105(7), 2248-2255, 2022.

ヘルスコミュニケーション学関連学会優秀論文賞規則に基づき、高山智子予備選考委員会委員長他5名で8月29日にzoomにて予備選考委員会を開催し、本年度の応募論文8編について予備選考を行い、上位3編を予備選考委員会からの選考結果として、選考委員会へ提案された。

予備選考委員会での選考過程は以下の通りである。応募論文8編について、事前に予備選考委員各自がAからDまでの4段階評価を行った一覧表に基づき、A→4点、B→3点、C→2点、D→1点を与え、合計得点を算出したものをもとに、予備選考委員会による選考方法についてまず議論を行った。なお、各委員におけるAからDまでの判断については、特に多様な視点からの選考という事を意識して共通の視点は設けず、優先順位付けの観点から、4段階それぞれ25%配分となるように努めることとし、上位から3位まで、4位までに3点の得点差があることから、合計得点から上位3編の選出で妥当であるとの合意が得られたため、上位3編を予備選考委員会からの選考結果として、選考委員会へ提案された。

9月8日にzoomにて藤崎他5名からなる選考委員会を開催し、予備選考委員会からの選考結果に基づき議論を行い、提案された上位3編の論文の中から下記論文を本年度の優秀論文賞として選考を行った。

選考理由は fundamental human motives という理論的な背景から検討されていること、研究デザインも 28,816名という対象集団から理論的に対象者の絞り込みを行い、1,005名という最終対象者に対して RCT で行われていること、COVID-19 ワクチンという非常にタイムリーなテーマについて扱っていることなどによる。